第1回　福島市観光共創戦略策定懇談会

日 時　令和7年6月30日（月）
午前10時00分～
場 所　福島市役所複合棟3階　303会議室

次　　第

1 開　会

2 委嘱状交付

3 あいさつ

4 委員・事務局紹介

5 座長選出

6 議　事

（1）次期戦略策定の概要について

（2）現行戦略の振り返りについて

（3）次期戦略の方向性について

（4）その他

7 閉　会

◎配布資料

【資料1】次期戦略策定の概要について
【資料2】現行戦略の振り返りについて
【資料3】次期戦略の方向性について
【参考資料1】（仮称）福島市観光共創戦略策定懇談会設置要綱
【参考資料2】福島市新たな時代の観光共創戦略（概要版）
【参考資料3】観光関連統計データ
【参考資料4】事業者アンケート結果
【参考資料5】新しい福島市総合計画の策定に向けた「市民アンケート調査」結果報告書（概要版）

第１回　福島市観光共創策定懇談会　出席者名簿

１　委　員　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（敬称略）

区　分	氏　名	所　属　等
観光団体関係者	坪井　大雄	福島市観光コンベンション協会 会長
	高橋　美奈子	飯坂温泉観光協会 理事
	加藤　貴之	土湯温泉観光協会 会長
	星野　千晶	高湯温泉観光協会 専務理事
農林商工団体関係者	笠井　真梨	福島県観光物産交流協会 観光部長
	大友　悠花	大友農園
交通事業団体関係者	友田　貴道	東日本旅客鉄道（株） 福島駅副駅長
その他	佐藤　由香利	福島市バリアフリーツアーセンター センター長
	伊藤　篤史	合同会社 LaUnion 代表
	伊藤　かずみ	(株)エス・シー・シー 編集課主任

２　オブザーバー

氏　名	所　属　等
福永　香織	公益財団法人日本交通公社　主任研究員
後藤　伸一	公益財団法人日本交通公社　主任研究員

氏　名	所　属　等
久保　健治	株式会社ヒストリーデザイン代表

３　事務局

氏　名	所　属　等
杉内　剛	商工観光部長
高橋　弥江	観光交流推進室長
守山　忍	観光交流推進室次長
目黒　貴裕	観光交流推進室次長
寺島　正英	観光交流推進室次長補佐兼温泉地振興係長

氏　名	所　属　等
半沢　隆行	観光プロモーション係長
中野　絢太	地域資源振興係長
野木　学	観光企画戦略係長
馬場　優	観光企画戦略係主査
菅野　誠	観光企画戦略係副主査

４　福島市観光コンベンション協会

氏　名	所　属　等
清野　正紀	専務理事

氏　名	所　属　等
横葉　純一	事務局長

5　席次表

福島市観光コンベンション協会専務理事
清野　正紀

福島市観光コンベンション協会事務局長
横葉　純一

株式会社ヒストリーデザイン代表
久保　健治

公益財団法人日本交通公社主任研究員
福永　香織

公益財団法人日本交通公社主任研究員
後藤　伸一

大友農園
大友　悠花　委員

東日本旅客鉄道（株）
福島駅副駅長
友田 貴道 委員

福島市バリアフリーツアーセンター
センター長
佐藤 由香利 委員

合同会社LaUnion
代表
伊藤 篤史 委員

（株）エス・シー・シー
編集課主任
伊藤 かずみ 委員

福島市観光コンベンション協会
会長
坪井 大雄 委員

飯坂温泉観光協会
理事
高橋 美奈子 委員

土湯温泉観光協会
会長
加藤　貴之 委員

高湯温泉観光協会
専務理事
星野 千晶 委員

福島県観光物産交流協会
観光部長
笠井 真梨 委員

係長	室次長	部長	室長	室次長
野木　学	**守山　忍**	**杉内　剛**	**高橋　弥江**	**目黒　貴裕**

主査	副主査	室次長補佐兼係長	係長	係長
馬場　優	**菅野　誠**	**寺島　正英**	**半沢　隆行**	**中野　絢太**

次期戦略策定の概要①

資料1

1. 策定の趣旨・目的

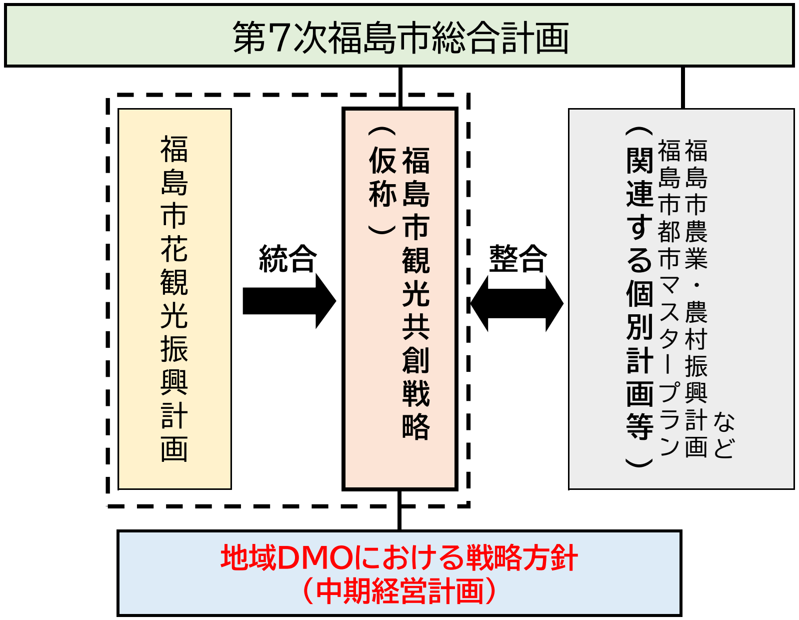
●現行の「福島市新たな時代の観光共創戦略（令和4年度～令和7年度）」は、コロナ禍において落ち込んだ観光業の早期回復と、本市が旅行先として選ばれるための観光振興施策推進を図る目的で策定した。

●次期戦略は、テーマ観光の推進やコロナ禍を経て復活したインバウンドの積極的な誘致、ふくしまDCの取組など、近年の情勢や本市を取り巻く現状・課題を的確に捉え、さらなる観光振興の推進を図るため、観光地域づくりの中心である地域DMOと連携により実効性のある戦略を策定するものである。

2. 計画の期間

令和8年度から令和12年度まで（5年間）

3. 戦略の位置付け



・第7次福島市総合計画における観光分野の個別計画
※【現行戦略】本市観光が目指す姿の実現に向けて戦略を立て、地域DMO（福島市観光コンベンション協会）、民間事業者、観光関連団体、市民、行政等が共創して観光振興施策を推進するための指針

・福島市花観光振興計画（平成31年度～令和7年度）を統合し、一体的かつ効率的に計画を推進
※「ふくしま花回廊」の推進、花見山周辺の原風景の維持、花き農家の振興・支援などの視点を継続

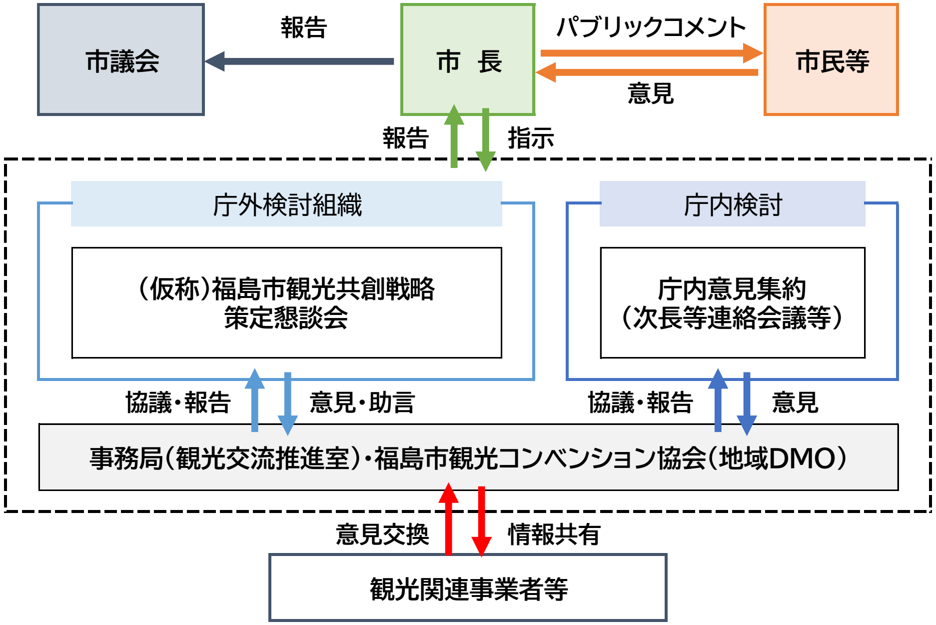
・関連する個別計画等との整合

・戦略的な観光振興を推進する地域DMOとの共創
（本戦略を踏まえた地域DMO戦略方針の策定）

次期戦略策定の概要②

4. 策定体制

福島市及び福島市観光コンベンション協会が共同して策定を進めます。
庁外検討組織として本策定懇談会を設置し、各関係団体等の皆様と戦略の内容を検討・協議いたします。
その他、観光関連事業者等との意見交換(アンケート等)や情報共有を図ります。



<策定懇談会委員>10名

区分	所属団体等	職 名	氏 名
(1)観光団体関係者	福島商工会議所 福島市観光コンベンション協会 福島地区タクシー協同組合	副会頭 会長 専務理事	坪井 大雄
	飯坂温泉観光協会	松島屋旅館女将	高橋 美奈子
	高湯温泉観光協会	専務理事	星野 千晶
	土湯温泉観光協会	会長	加藤 貴之
(2)農林商工団体関係者	(公財)福島県観光物産交流協会	観光部長	笠井 真梨
	福島市観光農園協会	大友農園	大友 悠花
(3)交通事業団体関係者	東日本旅客鉄道㈱福島統括センター	副所長 (福島駅副駅長)	友田 貴道
(4)その他	福島市観光コンベンション協会 (バリアフリー担当)	バリアフリーツアーセンター長	佐藤 由香利
	合同会社LaUnion	代表	伊藤 篤史
	(株)エス・シー・シー	CJMonmo 編集課主任	伊藤 かずみ

次期戦略策定の概要③

5. 策定スケジュール(案)

令和7年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
戦略策定作業	基本方針・素案の案作成				意見の反映・素案の案の修正など			★素案の決定			意見の反映・修正など	★戦略の決定
定例部長会		●【報告】 当初 (策定方針・スケジュール)										●【報告】 戦略決定
庁内意見集約					●意見集約① (素案協議①)		●意見集約② (素案の案②)				●意見集約③ (パブコメ結果等)	
策定懇談会				●第1回 (戦略の方向性協議)		●第2回 (素案協議)		●第3回 (素案決定)			●第4回 (戦略案の決定)	
パブリック・コメント									意見募集			
その他								●議会 正副議長説明				●議会 協議会報告

現戦略の振り返り①

資料2

○背景と現状（現計画）

①新型コロナ
外出自粛、観光客減少
訪日旅行者の大幅減少
観光業等に深刻な影響

②社会情勢
災害、地球環境問題
デジタル化の進展
経済の低迷

③人口減少・少子高齢化
高齢者の増加
消費・生産の縮小
経済活動停滞の懸念

④環境の変化
地域間競争の激化
ライフスタイルの変化
余暇活動の多様化

① 観光客の減少　② 来訪客満足度の低下　③ 消費活動の低迷

●基本目標（現計画）

『目的地として選ばれる、“ふくしまツーリズム”で 稼ぐ観光を目指します』

基本方針

1 “ふくしまツーリズム”の磨き上げと高付加価値化	2 戦略的観光地域づくりとデジタル化の推進	3 観光ホスピタリティの深化	4 MICEの推進及び“ふくしまツーリズム”との連動

基本戦略

1	2	3	4
1 「福島三名湯」×「山」「川」「空」のストーリー展開	1 観光地域づくり法人（地域DMO）との共創	1 地域のファンづくりの促進	1 MICE機能の強化
2 「福島盆地」のストーリー展開	2 ポストコロナにおける新しい観光スタイルの確立	2 観光人財の活性化	2 MICEの誘致と開催支援
3 「まちの歴史・文化」のストーリー展開	3 インバウンドの誘致と多様なニーズへの対応		

現戦略の振り返り②

■計画の検証（評価）

基本方針1
【総括】
・各施設の計画的な施設整備・改修の実施
・観光素材の磨き上げ、体験コンテンツの造成の不足

○取り組みの成果
・ヒルクライム大会、花ウォーク等の開催支援による誘客促進
・施設改修による高付加価値化

●課題
・温泉地と各観光地との連携
・「食」の魅力発信における物産振興の視点
・文化、スポーツセクションとの連携が不十分

基本方針2
【総括】
・継続したインバウンド誘致の強化が必要
・多様なニーズや持続可能な観光への対応

○取り組みの成果
・連携できる事業者の増加
・事業者向けセミナー実施
・多様なツールによるアプローチ（インバウンド）の実施

●課題
・データの活用・分析
・旅行形態の変化（個重視）
・多様性への対応
・インバウンド誘致の強化
・観光圏事業の認知度向上
・「持続可能」の概念

基本方針3
【総括】
・人材育成・教育が重要
・ガイドの育成・有償化
・二次交通など受入態勢整備

○取り組みの成果
・六市連携、圏域による関係人口の増加
・出前講座（小中高校生）
・花案内人養成

●課題
・教育における人材育成
・わらじまつりの認知度向上
・ボランティアガイド育成及び有償化の検討
・観光タクシーの強化
・二次交通の整備

基本方針4
【総括】
・既存施設のMICE機能強化を実施
・会議等開催によるにぎわい効果の創出

○取り組みの成果
・エクスカーション補助
・国際会議観光都市
・会議等開催の支援

●課題
・施設整備によるコンベンション機能の強化
・ハイブリットMICE対応
・食や宿泊への展開
・合宿等への施設の確保

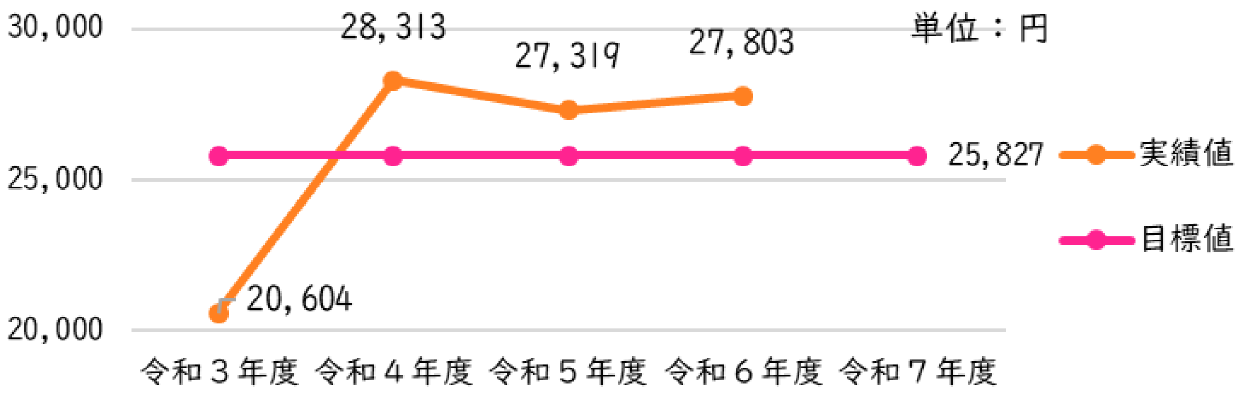
★現計画の全体総括（次期戦略に向け取り組むべき事項等）
・コロナ禍を経て、観光を取り巻く環境が大きく変化するなかで現状・動向を的確に捉え、今後5年間の方針を示すことが必要。
・本市の強みを活かした「テーマ観光」の推進、観光素材の磨き上げによる受入態勢の強化、高付加価値化による消費単価の増加を図る。
・データを活用・分析できるデジタルマーケティングによるターゲットを明確化したプロモーションの実施。
・インバンド誘致のさらなる強化、異文化コミュニケーション・多様性への対応。
・まち全体でのおもてなしの醸成、市民への地域の魅力を知る、好きになる働きかけ。
・観光資源同士の連携や各セクションとの十分な連携を図り、誘客・周遊の推進を図る。

現戦略の振り返り③

★現行戦略の数値目標の達成状況

① 観光消費平均単価額

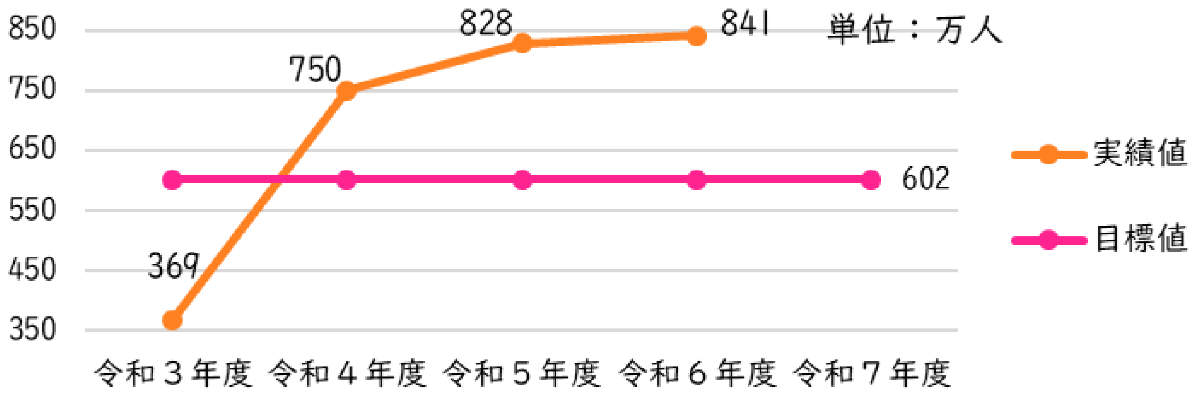
宿泊者が本市で消費した額の平均値。新型コロナウイルス感染症の影響により、観光客数の回復が不透明ではあるが、過去値から基準値までの伸び率と同じ伸び率(106%)を目指す。



⇒令和6年度は、27,803円で前年度比484円増(1.8%増)
そのうち、宿泊費用は、R5:18,031円、R6:17,999円
物価上昇のなか、料金を据え置きしている状況であると推測される。

② 観光客入込数

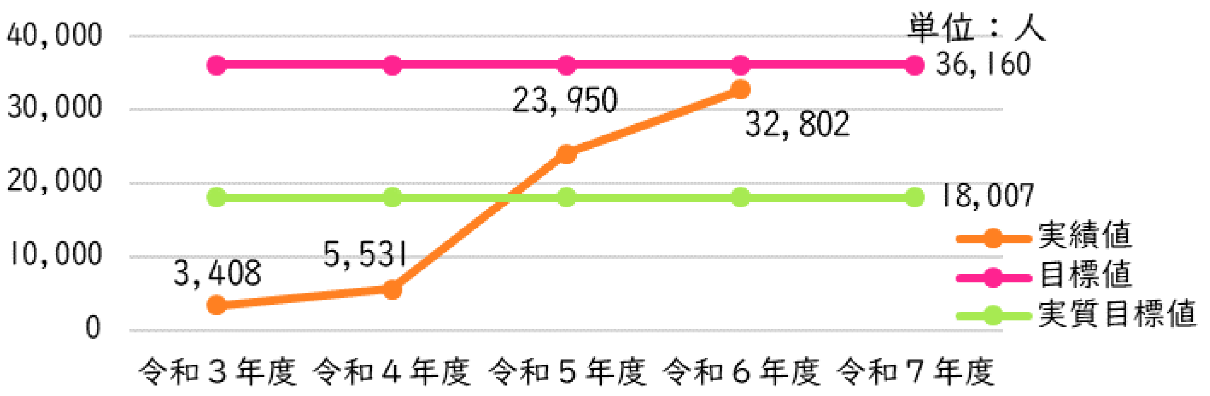
本市調査地点の観光客数。新型コロナウイルス感染症の影響により、観光客数の回復が不透明ではあるが、基準値の維持を目指す。



⇒令和6年度は841万人で過去最高を記録。令和4年度にオープンした道の駅
ふくしまが継続して堅調なほか、ふくしま三名湯への宿泊者も増加
一方、個別の観光地別では、約6割の地点で前年比減少

③ 外国人延べ宿泊者数

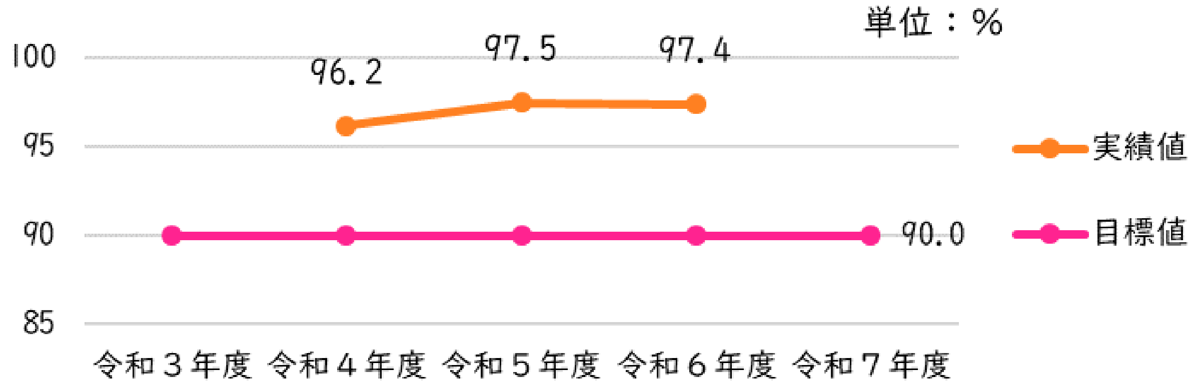
外国人が本市に宿泊する延べ人数。新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンドの回復が不透明ではあるが、基準値の維持を目指す。



⇒新型コロナ5類移行後、宿泊者数が増加し、過去最高を記録
国別では台湾、タイ、中国などアジア圏が多い傾向
※目標値と実績値の集計方法が異なる。実質目標値18,007人と比較した場合、
令和6年度実績で14,795人増(1.8倍)となる。(正確な集計･データ分析が課題)

④ 来訪者満足度

本市来訪者の総合満足度。過去値の84.2%を上回る90.0%を目指す。



⇒令和6年度の満足度は97.4%で前年度比ほぼ横ばい
「非常に満足」と回答した割合 R4:39.5%、R5:42.4%、R6:42.1%
※令和5年度～ 7段階評価のうち上位3項目「非常に満足」「満足」「やや満足」の合計

次期戦略の方向性（その①）

資料３

1. 観光に関する動向・状況

（1）国（観光庁）：観光立国推進基本計画（R5～7）

基本的な方針

〇持続可能な観光地域づくり戦略
・観光地・観光産業の高付加価値化
・観光DX、観光人材の育成・確保

〇インバウンド回復戦略
・コンテンツ整備、受入環境整備
・高付加価値なインバウンドの誘致

〇国内交流拡大戦略
・国内需要喚起
・ワーケーション、第2のふるさとづくり

目指す2025年の姿

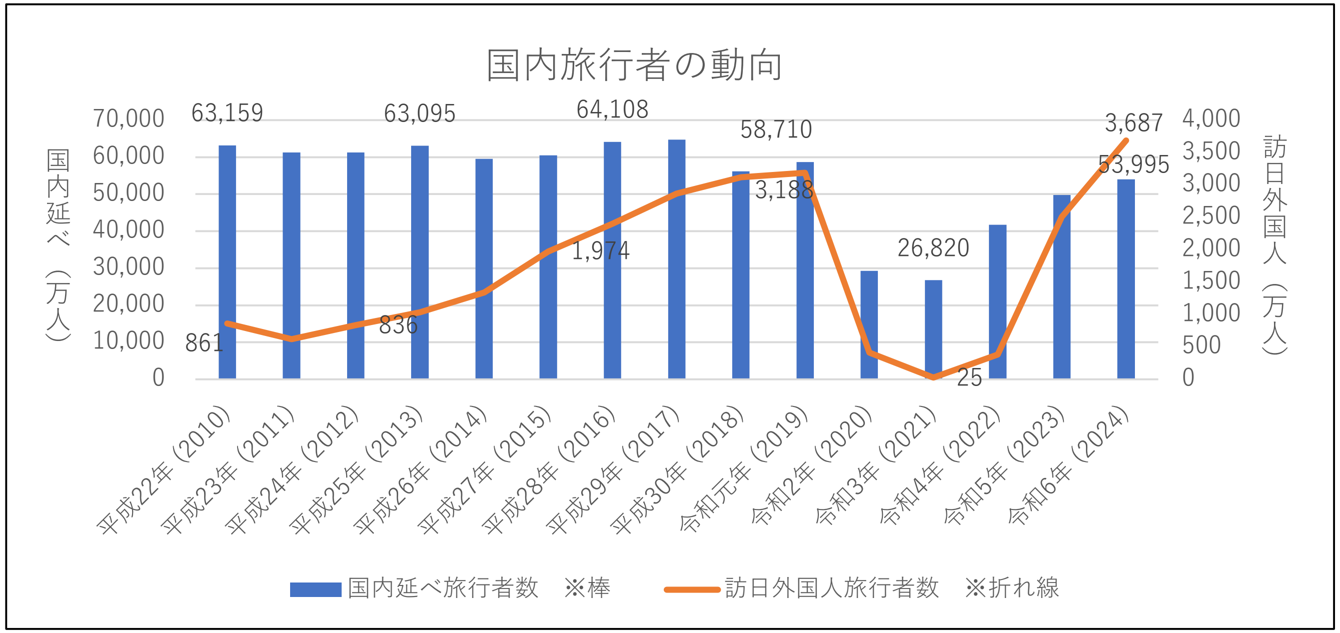
■活力に満ちた地域社会の実現に向け、地域の社会・経済に好循環を生む「持続可能な観光地域づくり」が全国各地で進められ、観光の質の向上、観光産業の収益力・生産性の向上、交流人口・関係人口の拡大がコロナ前より復活した形で観光が復活している。

■万博の開催地である我が国が世界的潮流を捉えた観光地として脚光を浴び、「持続可能な観光」の先進地としても注目されている。

【国内観光の現状】

・R6日本人国内延べ旅行者数 5.4億万人（R元年比8.2%減）
※コロナ前の90%程度に回復
・R6日本人国内旅行消費額 25.1兆円（R元年比14.5%増）で過去最高
・R6訪日外国人旅行者数 3,687万人（R元年比15.6%増）で過去最高
※国別では、韓国が最も多く、次いで中国、台湾、米国、香港の順
・R6訪日外国人旅行消費額 8兆1,257億円（R元年比68.8%増）で過去最高
※国別では、中国が最も大きく、次いで台湾、韓国、米国、香港の順
・訪日外国人旅行者の宿泊先の約7割は三大都市圏（東京・大阪・名古屋）に集中

参考：国内延べ旅行者数／「旅行・観光消費動向調査」観光庁
訪日外国人旅行者数／「観光白書」国土交通省



次期戦略の方向性（その②）

（2）福島県における観光の動向・現状

・R5観光客入込総数 5,392万人（R元年比4.3%減） コロナ前の95%程度

⇒震災前のH22年比5.7%減 94%程度の水準

・R5宿泊者数 969万人泊（全国に占める割合1.6%）

⇒前年伸び率 全国37.1%、県10.2% 全国の伸び率を下回る

・R5外国人宿泊者数21.3万人（全国に占める割合0.2%）

⇒前年伸び率 全国613.5%、県455.6% 全国の伸び率を下回る

⇒国別では台湾が最多、全体の5割を占める、次いでタイ、中国、米国、香港の順

※福島県はR5が最新の公表データ（毎年8月以降に前年データを公表）

東北6県の比較

令和5年	観光客入込総数（千人）	延べ宿泊者数（人）	全国順位	外国人延べ宿泊者数（人）	全国順位
青森県	31,192	4,394,400	35	265,280	31
岩手県	23,438	5,855,350	28	282,510	30
宮城県	68,236	10,072,130	16	525,870	19
秋田県	28,354	3,000,970	43	95,600	43
山形県	38,664	4,566,630	34	178,790	37
福島県	53,923	9,686,880	17	213,080	34
参考：福島市	8,287（R6：8418）	733,557（R6:686,388）	―	23,950（R6:32,802）	―
参考：全国	―	617,474,940		117,751,450	

※観光客入込総数：各県観光客入込数公表値（共通基準）
※宿泊者数：観光庁宿泊旅行統計調査

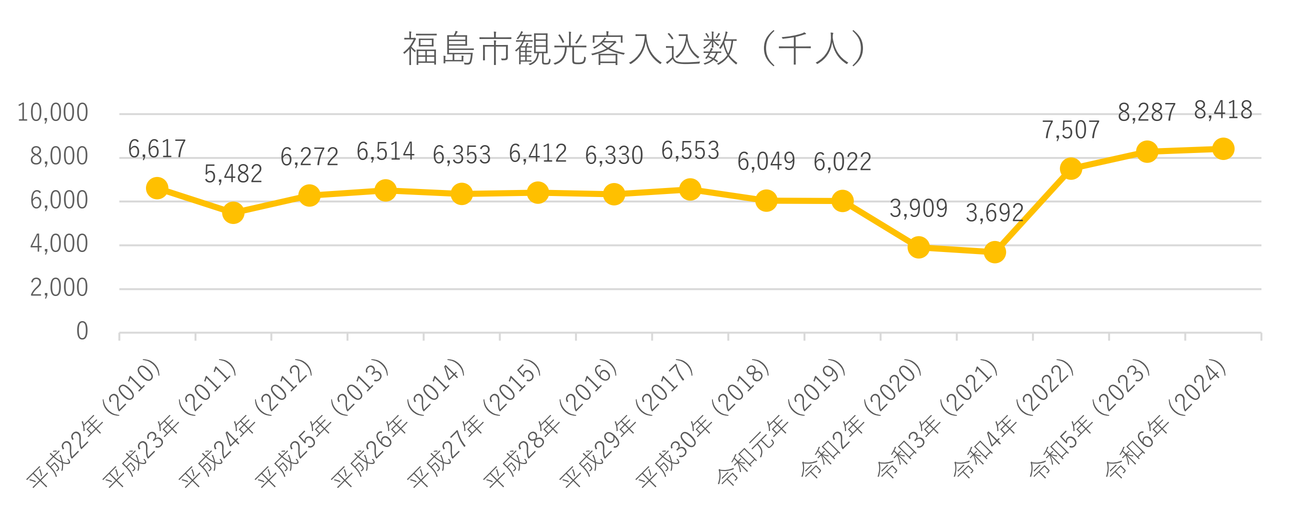
（3）福島市における観光の動向・現状

・R6観光客入込総数は過去最高の8,418千人

⇒道の駅ふくしま、県観光物産館、3温泉地等で観光客入込数増（土湯：増、飯坂・高湯：横這い）

⇒歴史・文化施設、レクリエーション施設等で観光客入込数減

・R6の3温泉地観光客入込数はコロナ渦前の令和元年の約9割程度まで回復



○ふくしまデスティネーションキャンペーン
令和８年４～６月（次年度アフターＤＣ）
○大ゴッホ展
・第１期：令和８年２月２１日～５月１０日
・第２期：令和９年６～９月（予定）
○東北絆まつり
令和９年６月（予定）※例年６月開催

次期戦略の方向性（その③）

2. 次期観光共創戦略の策定にあたって

(1)現計画の振り返り等から取り組むべき事項(市の方向性)

〇観光素材(資源)の磨き上げ(太い幹づくり)
〇宿泊・体験・飲食・物産等の観光素材（資源）どうしの連携
〇インバウンド需要の誘致の強化(外国人の受け入れ環境の整備等)
〇観光DXの推進(業務の効率化やデータ分析)
〇地域特産品や伝統文化を活用した地域独自の魅力の創出･ブランド化
〇SNS活用など効果的な認知度向上、誘客に向けたプロモーション
〇市民意識の醸成(地域の魅力の再発見、おもてなし力の向上)

(2)国の示す方向性について（観光庁：交通政策審議会観光分科会資料参照）

〇地方誘客のより一層の推進（地方観光の魅力向上など）
〇持続可能な観光の推進（観光産業を儲かる産業に）
●国内観光の課題等
・三大都市圏へのインバウンド宿泊の集中（地方誘客が重要）
・観光産業の人手不足
・オーバーツーリズムへの対応
・国内旅行需要の維持
・旅行需要の集中

(3)福島市の現状や社会課題等について

①人口減少・少子高齢化の進行
・消費、生産の縮小による経済活動停滞
・労働力、地域の担い手不足
・まちの活気の低下

②ライフスタイルの変化
・多様な働き方
・価値観の多様化
・AIや様々なテクノロジーの進展

③気候変動と防災
・地球温暖化
・自然災害の増加、激甚化

(4)『観光』がもたらす社会への影響について

経済効果の創出	雇用の創出	地域活性化	交流・関係人口の拡大
異文化交流の促進	市民の意識向上	豊かな市民生活	地域資源の保護・活用

など

観光がもたらすことが期待できる多面的な効果

『観光』はまちの持続的な発展のための重要な要素

地域経済･社会の活力の好循環を創出

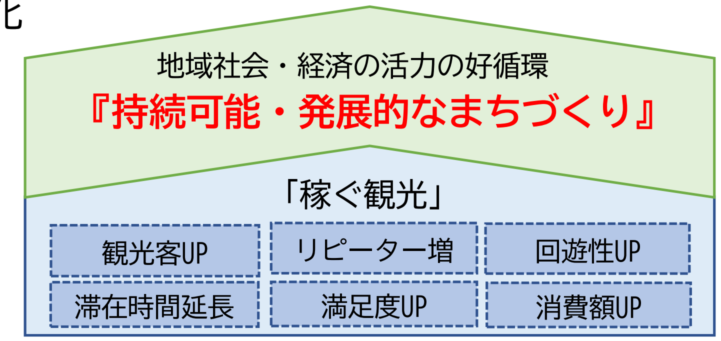
次期戦略の方向性（その④）

3. 次期観光共創戦略素案概要（案）

●目指す姿

・ふくしまの強みを活かし、観光資源の魅力を最大限に引き出すことによる観光の質の向上・高付加価値化
・民間事業者等の収益力・生産性の向上（「稼ぐ観光の実現」）による地域経済の活性化
・観光客の満足度・幸福度の向上
・観光客の増加（滞在時間、リピーター、回遊率の向上）、交流人口・関係人口の拡大
・自らの文化・地域への誇りと愛着、異文化・国際化の相互理解の増進

⇒地域社会・経済の活力の好循環をもたらす持続可能・発展的なまちづくり



●基本方針

【基本方針を踏まえた個別戦略の展開（仮）】

Ⅰ　ふくしまの強みを活かした誘客推進
　『花』や『温泉』、『食』などのふくしまの強みを活かしたテーマ観光を推進、個々の磨き上げと多彩な観光資源との連携を図った誘客を推進します。

・『花』・『温泉』・『食』それぞれのテーマ観光の推進や「ふくしまステイ」の展開
・観光資源の磨き上げと宿泊・体験・飲食・物産等の連携による誘客
・多様な観光資源を活かした、滞在交流が図れる仕組みづくり

Ⅱ　観光ニーズの変化を捉えた対応
　インバウンド需要への対応をはじめ、時代の変化や日々移り変わる観光ニーズを捉えた施策を展開し、認知度向上・誘客に向けた取り組みを推進します。

・観光ＤＸの推進、戦略的なインバウンド誘客の展開
・新規旅行やリピーター獲得、関係人口の拡大のための取り組み（観光客の満足度向上）
・ＭＩＣＥの推進による交流人口の拡大、まちの賑わいの創出

Ⅲ　活気あふれる魅力的な観光地域づくり
　観光人材の育成や自然・歴史文化の保全に取り組むほか、観光客・住民にとって安全・安心なまちづくりを行い、住む人が誇れる魅力的な観光地づくりを推進します。

・観光ホスピタリティの深化による観光まちづくりの推進、おもてなしの心の醸成
・教育による地域の魅力発掘、文化・地域への誇りの醸成、観光人材の育成・確保
・観光資源の保全（原風景の維持等）や防災対策等による安全・安心な滞在環境づくり